

問 工業を産業へ文言変更する必要性は何か。

答 製造業対象だったものがサービス業も対象になったため。

平成29年度一般会計補正予算

問 養老改元1300年プロジェクト事業406万9千円減の内訳は。

答 今年度予定していたまぐさの滝整備事業工事費の減額。直江の滝の調査の調査結果を踏まえて次年度以降で検討する。

問 空家等対策事業費で協議会の詳細と設置時期は。

答 要綱を準備中であり学識経験者の意見をいただきながら進めていく予定。10月末か11月には第1回協議会を開催する。

問 三滝整備事業の進捗状況は。

答 平成28年度は、養老公園滝前遊歩道整備事業と直江の滝散策道整備事業が完了した。まぐさの滝整備事業については平成30年度以降に持ち越す計画で進んでいる。

問 名古屋駅南側、ちゃん人形前で行った養老町PR事業の成果及び評価は。

答 アンケートに答えられた方の中から、抽選で300名に3千円分の地域商品券を配付したが、そのうち152名が養老町へお越しになり44万5千円使用された。

問 地方創生交付金関連事業についての評価と今後の方針は。

答 地方創生推進委員会にて検証を行っており成果が上がった。

平成29年度公共下水道事業特別会計補正予算

問 補正額220万の内訳は。

答 平成29年度支払い予定である消費税及び地方消費税を再算出したところ、支払い対象となる平成28年度工事金額が少なく、今年度支払額の予算不足が判明したため。

本会議での主な質疑内容

平成29年度一般会計補正予算

原案に賛成討論
(6議員)

養北認定こども園は、諸般の事情が重なり、開園が2年ほど遅れており、この間の執行側の説明不足は否めない。しかし、議会はもとより地元関係者も一刻も早い開園を願っている。一般質問での答弁であったように、直ちに予算執行するのではなく、議会を含む関係者と

修正案に賛成討論
(4議員)

重大な方針変更をしたにも関わらず、報道機関に先行公開され、議会軽視と言わざるを得ない。養北認定こども園建設を否定するものではなく、関係保護者、地元、議会ともども十分熟議の結果を踏まえたくうえでの予算計上を求める。

特別会計

●国民健康保険特別会計

問 特別徴収、普通徴収の件数は。

答 特別徴収762件、普通徴収3521件。

問 資格者証、短期被保険者証の交付件数は。

答 資格者証33世帯、短期被保険者証106世帯。

問 短期被保険者証交付の条件は。

答 納税相談を行い分納誓約をした世帯に6ヶ月を限度に発行している。

問 平成28年度出産育児一時金の件数は。

平成28年度 一般・特別会計決算を認定

一般会計
歳入108億6,771万円
歳出106億1,284万円

特別会計
歳入79億7,896万円
歳出73億6,755万円

決算特別委員会
委員長 水谷久美子 副委員長 大橋 三男
9月11日・12日の両日にわたり決算特別委員会を開催し、平成28年度一般会計及び9の特別会計の決算について集中審査を行いました。その結果、委員会では全ての決算を認定すべきものと決定しました。その中から、会計ごとにいくつかの質疑をお知らせします。

一般会計

問 平成28年度の差し押さえ件数と実績は。

答 149件で約1500万円。

問 公害対策費の不同額1065万1千円程が生じた理由は。

答 高度処理型合併浄化槽設置事業交付金で、当初予算150基、実績が90基による事業交付金差額。

問 土地改良費の不同額1264万円程が生じた理由は。

答 揚排水機管理手当等事業であり、平成28年度は災害等が少なかったため不用額が多くなった。また、数字の確定が平成29年5月であり補正対応ができなかった。

問 介護サービスを受けていて滞納している件数は。

答 平成28年度17件。

問 平成30年度の介護保険料改定の見通しは。

答 待機者等を含め需要と供給のバランスを検討しながら、介護保険運営協議会にて諮っていききたい。

問 認知症サポートー養成講座の実績、及び今後の課題と取り組みは。

答 平成28年度は9回実施し256名、累計で1597名が修了した。平成28年度から開所している認知症力フェ等で、認知症サポーターが地域において活躍できる場を提供できるよう検討していききたい。